

説明会後の Q&A 質問順

- 1) 福祉用具の研修は、2日間かかるが1泊2日で済むのか
 - 対面講義の日程はなるべく負担がかからないように連続にするケースが多い
- 2) I類がすんでII類を受講するときには、リーダー等の役職についていなければ受講できないのか
 - I類終了後の時点で、確認はします。リーダーになっていなくてもその可能性がある方は受講可能かどうか認定介護福祉士認証・認定機構（このあと機構と称する）と相談しながら対応させていただくことになる

STEP 1 前提条件（受講要件）

介護福祉士の資格を有していること	介護福祉士資格取得後の実務経験5年以上
介護職員を対象とした現任研修の100時間以上の研修歴を有していること	研修実施団体の課すレポート課題または受講試験において一定の水準の成績を修めていること（免除の場合有）

※その他：介護職の小チームのリーダーとしての実務経験を有すること、居宅/居住(施設系)サービス双方での生活支援経験があること
※受講要件のない項目もございます

申し込みには実施団体により「介護福祉士基本研修」「ファーストステップ研修」の受講が求められることがあります。
詳しくは研修実施団体にお問い合わせください。

機構 HP より

- 4) リハビリ関係の科目は連続で開催するのか（説明資料参照）
 - 機構の HP <https://www.jaccw.or.jp/nintei/aim/curriculum>
 - 『生活支援のための運動学』『生活支援のためのリハビリテーションの知識』この2科目を合わせて2日間で開講している。『自立支援に向けた生活をするための支援の実践』は2日間で開講している（計4日間）
 - 長野県介護福祉士会（このあと長野県と称する）月の第3週の2日間前後で講師と日程を調整することが多く、連続で受講可能な科目はバラバラにならないように構成するようにしている。
- 5) 3回開講したが、1回に何人程度受講しているか
 - 1回目は 長野県で28名 新潟と京都から2名で30名
 - 2回目は 県外6名 県内18名 最終的にはご自身で辞退された方もある
最終的には計18名（コロナ禍のため1年休止、辞退者多し）
 - 3回目は 県内5名 県外5名（すべて対面）

6) 辞退された方の理由は？

- 月に1回の研修だが、その間の1か月の間で、前回の講義分の事後課題と次の回の事前課題が重なり、課題が書けないケースや科目試験が落ちると再試験があるのだが、それが重複するとかなりの負担となるケースがあった。
また、コロナ感染症対応で、外部研修を控えた方もあった。科目の中には、この科目を受講しなければ次の科目を受講できない(関連性の深い)科目があり、感染症等で休まざるを得ない場合、次の科目を受講できないケースも発生した。それが続くとかなり負担となり、辞退するケースもあった。
そのため、長野県では、単位制というより、なるべくみんな一緒にクラス編成のようにして受講すると仲間意識が芽生え、辞退が減ると考えている

- ★機構の受講要件の中に、100時間の受講歴があることとなっているが、単発の講義を受講していても、レポートを書くという経験がほとんどないので、介護福祉士のファーストステップ研修を受講することで、書く訓練になると考える。単発の100時間だけでは、かなり『書く』能力が必要なこの研修を受講するのは大変だと考える。(福井県介護福祉士会事務局)

7) この講義を生で聞きたいと思ったら長野で受講できるのか

(ハイブリッド研修なのか)

- 完全 zoom なので、講師も自宅からのケースも多い
(ハイブリッド研修ではない)

8) 認定介護福祉士の資格を取ってから、更新があるともうが、その内容は何か

- 機構の HP https://www.jaccw.or.jp/update-point_201910.pdf
5年ごとの更新 ポイント制となっている(5年間で20ポイント以上)
必ず必修:年間1回毎年更新研修が行われている 5年間に最低2回受講が必要 且つ 論文または実践レポートの提出 (1万字弱の文字数)
論文または実践レポートが大変で、担当の講師からの指導で再提出等もある。
この論文やレポートは、認定介護福祉士としての実績となり、社会に認められる介護福祉士となってもらう目的がある
選択内容:白の部分については各自で選択

9) 研修の日程は、平日?土日?

- Zoomだと土日が増える印象がある

10) 科目テストは、長野県に行かなければならないか?

- 試験時間も研修時間に含まれる
長野に行くのは、4回(リハ2回 福祉用具1回 最終日の予定)
- 最後の科目 『応用的生活支援の応用と指導』 60時間(2日間講義)
自職場での課題が多い、パワポでプレゼンをする

11) 今回を逃すと、次回はいつ開講するのか

- 今回の予定は R87 月～R10 7 月～8 月修了

もう一度科目の申請をすべて機構に提出し直しとなるので、R11 年度はその準備期間とし、次回は R12 年夏ごろ開講する予定

- 他県の場合、1 科目開講するがその次の開講が未定のところも多い（講師要件や開講のための認可が間に合わないこともある。認可は年に 2 回等、機構の条件が厳しい）

12) 講師要件は、厳しいのか？

- 認定介護福祉士の必要性を理解している講師や、この資格ができた経過を理解している講師は少ないので、全国的に人数が少ない。大学の修士課程の修了した講師であることとか、例えばリハビリの講師は、介護福祉士と仕事をしたことがある等の要件があるので、大学の教授だけではできない場合もある。

13) 受講料は一度に払うのか

- 基本的に受講料は 1 科目ごと リハビリ等 2 日間ある場合は 2 科目分の支払いとなる

★認定介護福祉士養成研修は、全科目をトータルで開催すること自体が難しい研修である。科目ごとに全国で開催される講義を受講することも可能だが、自分で日程や受講順を考慮しつつ、受講することは、受講生の負担（交通費・宿泊費等の金銭的な負担も含む）が非常に多いと考える。トータルで開催しており、Zoom 開催を中心として科目受講管理等の相談支援を行う長野県で受講することが、現時点では望ましいと考える（福井県介護福祉士会事務局）